

13:05 講 演 「大規模授業での I C T を用いたアクティブ・ラーニングの実践」

コース・マネジメントシステムにテキスト、小テスト、レポート機能を掲載して予習環境を構築した上で、大教室で I C T を活用した双方向型の講義と学生同士による対話型演習を実施する授業は、人的経費を増加させないで講義をアクティブ・ラーニングに変換していく点で大学経営にとって重要。授業 90 分の内、60 分はクリッカー等を用いて情報量を重視した講義、30 分は知識の定着を重視したグループによるディスカッションの機会を設け、その結果を発表させるとともに、毎回受講者にレポートの提出、小テストなど評価に取り組んでいる事例を通じて、今後の課題を紹介いただきます。

講 師： 鈴木 久男氏（北海道大学高等教育推進機構副機構長）

14:05 休 憇

14:20 講 演 「アクティブ・ラーニングに求められる教学マネジメントと学修環境の充実に向けて」

一方向的な授業から、教員と学生、学生同士による対話を取り入れた学生参加型授業へ大転換させるために、教員の意識変革が大きな課題となる。アクティブ・ラーニングの全学的な展開に向け、評価ループリックによる学修成果の測定、各科目間、各教員間の相互調整などの教学マネジメント体制の工夫やラーニングコモンズにおける上級学年生などのファシリテータによる学修支援、学生や教職員が「学び」をテーマに 30 分枠で報告し合う試みなどを通じて、アクティブ・ラーニングを充実するための課題を紹介いただきます。

講 師： 西浦 昭雄氏（創価大学学士課程教育機構副機構長、総合学習支援センター長）

15:20 休 憇

15:30 関連情報提供

「主体性を引き出す産学連携 P B L 授業（FSP研究会）の紹介」

「反転授業の取り組みについて」

「本協会における分野別アクティブ・ラーニングの対話集会」

「情報関係補助金の執行状況」

「平成 25 年度情報投資額調査の結果」

「平成 26 年度情報環境調査の実施」などを予定

16:30 閉 会

(2) 開催結果

参加状況は、34 大学から 49 名が参加した。

[他 3] 研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のファカルティ・ディベロップメント、職員のスタッフ・ディベロップメントの貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの講演、事例紹介の著作権処理済のコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、希望する会員に有料でオンデマンド配信している。

コンテンツは 24 年度 144 件、25 年度 141 件、26 年度 173 件の計 458 件となっている。コンテンツ使用には Windows 7 の PC 環境が必要である。

26 年度分の配信分担金は、正会員 32,400 円から 54,000 円、賛助会員は一律 43,200 円などで、24 年度分はすべて無料としている。利用人数は無制限で参加申込みは Web で行っている。